

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	61	学校名	茨城県立取手松陽高等学校						課程	全日制			学校長名			佐藤 真			
教頭名	小野 威人												事務（室）長名			石田 早苗			
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	38	実習教諭、実習講師、実習助手			1	事務職員	3	技術職員等	4	計	94	
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数					
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科			68	93	73	83	77	73			218	249	12					
	美術科			4	26	6	24	5	25			15	75	3					
	音楽科			1	9	2	12	3	3			6	24	3					

2 目指す学校像

学校・家庭・地域社会と緊密な連携を図りながら、教職員と生徒が協働して全ての教育活動に積極的に取り組み、明るく活力ある学校を目指す。具体的には、全日制普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、生徒の「生きる力」の育成と本校発展のために、教職員が明確な目標を持ち、教育実践の充実を図る。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○ 心身ともに自立し、主体的に学び実践する生徒の育成 ○ 広い視野をもち、多様性を重んじ、社会に貢献できる生徒の育成 ○ 芸術やスポーツを通し、感性を磨き、心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○ 課題の解決を目指し、主体的・対話的で深い学びを実現する探究活動の実施 ○ 芸術や文化、地球市民教育、ボランティア活動を通じて社会的視野を広げ、協働できる資質を身に付ける活動の実施 ○ 部活動や学校行事、地域と連携した芸術活動をはじめとする、特色ある活動の実施
入学者の受入れに関する方針	○ 基本的生活習慣の身についた学習や活動に意欲的に取り組むことができる生徒

(アドミッション・ポリシー)	○ 自らのキャリアを主体的に探究し、自己実現のために継続的に努力できる生徒 ○ 芸術や文化に関心を持ち、社会に貢献する意欲のある人間性豊かな生徒
----------------	---

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・家庭学習の時間数が不足し（めやすは学年＋2時間）、学校行事（土曜開放講座等）の参加者も少数にとどまっている。 ・授業における生徒の主体的な授業参加に個人差が見られるなど学習の取組に受け身の態度が見受けられる。 ・現在の学習に追われ、進路等の将来を見通した学習が遅れ、計画的な学習が達成されていない。 ・授業や課外等が単調になりがちな傾向にある。	・土曜開放講座（学習会）、課外授業等の周知不足により学習に関連した諸行事が自主学習の定着につながっていない（参加生徒数の向上）。 ・学校内における授業研究の機会が少なく、組織的に指導法の研究や授業内容の改善を図ることが困難。よって生徒による授業評価が決して高くはない。（令和5年度から実施する授業改善プロジェクトの活用） ・取手松陽高全体としての思考力・判断力・表現力を高める授業スタイルの共通理解を図る必要性。（授業参観、他校視察などの機会を設ける）
進路指導	・大学進学希望者が約60%であり、組織的な進路指導の推進と一般入試で合格できる学力の育成を目指しているが、実際の進学率は50%前後にとどまる。 ・生徒の目標とした進路を主体的に考えさせ、キャリア教育の充実と情報収集に努力している。	・進路指導部が主体となって3年間を見据えた進路指導を学校内で共有すること。キャリア教育をとりいれ、各学年に応じた指導の強化を図ること。（職員・生徒へのビジョンの提示） ・保護者の理解と信頼を得るための進路情報提供の徹底や連携の強化。（進路情報の共有）
生徒指導	・交通事故や特別指導の件数が少なく、全体的には落ち着いた雰囲気である。日常生活での挨拶や服装・遅刻指導などの規律ある生活態度の育成や携帯・スマホの適切な使用法の徹底などに努めている。 ・家庭環境の多様化に伴い、関係機関や諸団体との連携を図っている。	・挨拶、きちんとした制服の着装、遅刻防止を重点項目としているが、更なる指導の必要性。 ・スマホのマナー等を徹底する機会の不足。 ・登下校時の危険箇所の発見と事故の未然防止に努め、家庭・近隣高校、中学校・警察や児相等との連絡・談等の連携を密にすること。

別紙様式 1 (高)

特別活動	・ボランティア活動への積極的な参加を奨励している。 ・コロナ禍で実施する学校行事を工夫することにより活動内容の充実を図っている。 ・部活動加入率の向上と部活動の活性化に努めている。 ・ホームルーム活動において生徒一人一人の豊かな心を育む教育に努めている。	・自主的にボランティア活動へ参加する姿勢を育むための働きかけを行っているものの、周知不足により参加者数の伸び悩みが生じている。 ・学校行事を通して、生徒会活動や各種委員会の活動を主体的に取り組ませること。 ・部活動満足度の向上と生徒主体の部活動経営並びに外部指導者と連携した部活動の運営。 ・ホームルーム活動における、リーダーシップをとれる生徒の育成を図るための研修機会確保。
保健・厚生	・保健・安全教育の充実を目指した指導を行っている。 ・保健室の利用が減少しており、生徒の自己管理能力が向上していると思われる。継続して取り組みたい。 ・ボランティア活動を通して豊かな人間性の育成を目指す指導を行っている。 ・感染症対策のため、一層の清潔な学習環境の整備と充実に努めている。 ・防災や危機管理のための環境を整備している。	・メンタル面で課題を抱えている生徒に対する理解を深める研修会を実施。(年間2回程度) ・校内一斉清掃を実施して愛校精神・助け合い・友情を育成する。(年間3回程度) ・生徒の健康情報等を共有。(会議等で教職員間の連携を図る) ・校内の危険箇所の発見・整備する手法の確立。 ・災害に備え、緊急時の体制の周知。
働き方改革	・教員により勤務時間に差があるものの、1ヶ月の職員の平均超過勤務時間は8時間34分である。(今年3月調査)	・職場環境や勤務時間の改善。(令和4年3月調査時間が7時間58分で36分増)定時退勤日の遵守。

5 中期的目標

普通科・美術科・音楽科を併せ持つ特色ある学校として、すべての学科の生徒が主体的に行動し、崇高な職業観を持ち、進路目標が実現できる進路指導の充実と、創造性と幅広い人間性を育む明るく活力のある学校づくりを目指す。 1 地域の信頼と期待に応えとともに、より開かれた学校づくりを目指す。 2 普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、全ての生徒が本校の教育環境を活用して、芸術性やたくましく豊かな人間性を育み、広く社会に貢献できる生徒の育成を目指す。 3 教職員の専門性や教科指導の充実を図り、職員一人一人がそれぞれの立場で学校運営に積極的に参加することで、信頼される学校を目指す。 4 ICT の活用による業務の効率化等で生まれる心身の余裕を、生徒の指導に生かせるように働き方改革を推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基本的な生活習慣（新型コロナウイルスを含む感染症対策の対応を含む）と学習習慣の定着	1 After コロナの状況下で、生徒・保護者並びに家族・職員の安心安全を確保しつつ「学びをコロナ以前の状態に戻しつつ、コロナで培った新たな取り組みを取り入れる等」の方策を積極的に進める。 2 朝の交通指導と登校指導の充実を図り、挨拶・遅刻指導、端正な制服着用を含めた生徒指導を徹底する。 3 毎日の授業を大切にすると同時に、家庭学習習慣の徹底を図るため、保護者の理解と協力を得るように努める。
ICT の活用を含めた学習による学力向上と主体的な学びの育成	4 ICT を活用した授業研究や職員研修を充実させることにより、ICT を活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れ、生徒の学力向上を図る。 5 積極的に課題や小テストを活用することで、家庭学習の時間を増やし、自主学習の習慣を定着させる。 6 年間を通して個別面談を計画的に実施し、進路について主体的に考える力を身に付けさせる。
国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対策の確立	7 受験対策を充実させ、国公立大学合格者数延べ5人以上、私立大学合格者数延べ120人以上を目標とする。 8 進路講演会や高大連携などの取組を拡大し、生徒の進学意欲を高める。 9 土曜開放の内容充実やきめ細かい課外指導等により、一般入試で合格できる学力を育成する。 10 三年間を見通した体系的な進路指導の確立と、新しい学力観に対応した指導法の研究を図る。
特別活動・部活動の活性化による学校生活の充実	11 部活動加入を働きかけるとともに外部指導者の積極的な活用を図りつつ、加入率70%以上を目標とする。 12 地域行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動・国際交流を積極的に推進する。また、学校HP、学校通信等を用いて情報発信を充実させる。 13 ホームルーム活動や学校行事及びボランティア活動等を充実させることで、自らを振り返り、将来を考え、自分の成長を認識できるようキャリアパスポートを活用する。

別紙様式 1（高）

働き方改革の推進	14 ICT の利活用による業務の効率化、資料等のペーパーレス化を推進することにより、教職員の業務改善を促す。 15 部活動の全体活動の効率化を図ることで活動時間を短縮し、生徒・職員の負担を軽減する。
授業改善の積極的な取り組み	16 授業改善プロジェクトチームを中心に、授業の相互参観や授業改善ワークショップを開催し、授業スキル向上に努める。 17 生徒による授業評価を活用する。具体的には、2 回目の調査結果を 1 回目の調査結果から 5 %以上向上させる。